

資料 4

エ 海外向け「健康長寿」プロモーション業務

(1) 目的

平成28年度業務において制作した『佐久地域「健康長寿」プロモーション映像（長編PV）』をより佐久市の魅力を盛り込んだ映像に改定する。

また、海外視察者やJICA等へPRするための多言語パンフレットを作成し、保健医療のつばさ事業の海外視察者の増加を図る。

(2) 業務内容

- ・映像改訂版の制作（高齢者福祉事業、佐久市のヘルスケア産業を追加）
- ・多言語パンフレットの作成
- ・日本語、英語、中国語の3ヶ国語版を制作

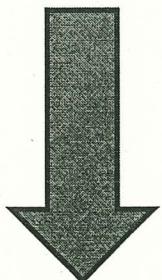
(3) 活用方法

- ・海外の視察団体、JICAや視察コンサル等へ佐久地域の「健康長寿」のPR資料として配布

イメージ図

平成28年度 健康長寿プロモーション映像

- ① 短編（落語）⇒一般向け
- ② 長編（佐久地域の取組み）⇒視察関係者向け

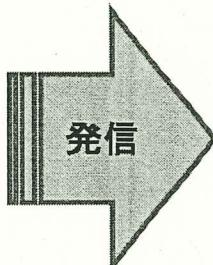


PR強化

- ・佐久市の生まれる前から高齢になるまでの生涯を通じた切れ目ない保健・高齢者支援サービス
- ・佐久市内のヘルスケア産業

平成29年度 海外向けプロモーション

- ・追加映像（高齢者支援事業、市内ヘルスケア産業）
- ・映像の精査（字幕、写真の調整）
- ・パンフレット作成



発信



北陸新幹線

- 東京駅から／新幹線あさまー佐久平駅(約72分)
- 金沢駅から／北陸新幹線ー佐久平駅(約90分)

上信越道

- 東京方面から／練馬ICー佐久IC110分(練馬から150Km)
- 新潟方面から／上越ICー佐久IC日本海から90分(上越から140km)

中央自動車道

- 東京方面から／須玉ICまたは長坂ICから国道141号経由
- 名古屋方面から／岡谷ICから国道142号経由

佐久市役所 健康づくり推進課

〒385-8501 長野県佐久市中込3056

TEL:0267-62-2111(代表) FAX:0267-64-1157(市民健康部)

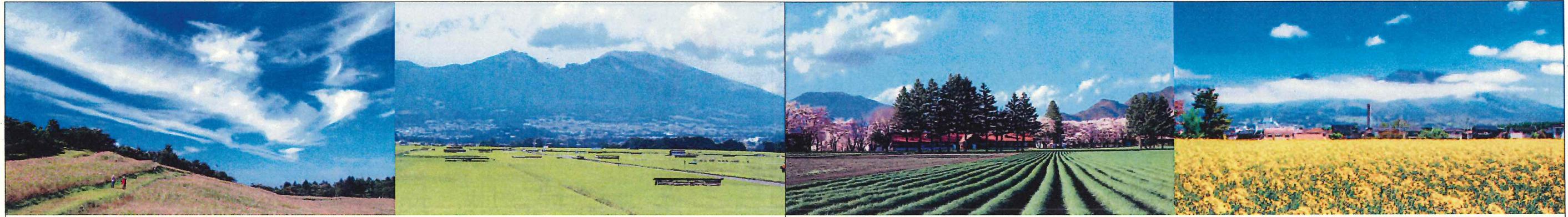
<https://www.city.saku.nagano.jp>

健 康 長 寿 都 市



SAKU Health care model

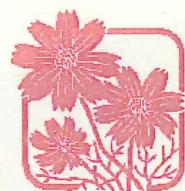




CONTENTS



- P01 佐久市の概要
- P02 佐久市の保健事業
- P04 佐久市の高齢者支援事業
- P06 佐久総合病院
- P08 浅間総合病院
- P10 佐久学園
- P12 佐久穂町
- P14 佐久市のヘルスケア産業
- P16 保健医療のつばさ事業



佐久市の概要

The outline in SAKU CITY



世界一の長寿国家、日本。

その日本の中でも、特に長寿なのが長野県。

日本列島のほぼ中央に位置し、豊かな自然に恵まれた、常に日本の長寿ランキングに入っている県です。

長野県佐久市。人口およそ10万人、面積は424平方キロメートル、高速交通網が充実し、晴天率も高いこの市は、平均寿命が長いのはもちろん、健康で生き生きしているお年寄りが多い市として注目されています。

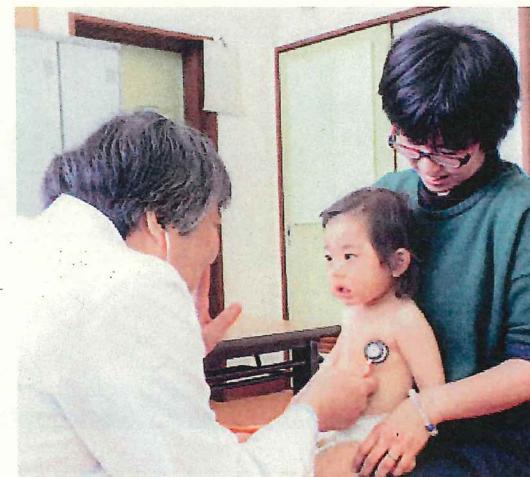
そこには、これまで先人たちが築いてきた「健康長寿」を支える保健・医療のシステム、また産・官・学・医の4つと地域住民が連携した健康都市づくりの取り組みがありました。





佐久市役所

保健事業



■母子保健事業

乳幼児期の信頼感や愛着形成が、子どもの心の基盤となり、成人期の健康にも大きく影響すると言われています。

「パパママ教室」

佐久市では、生まれてくる子供の健やかな成長や、安心・安全な出産・子育てを目指し、赤ちゃんの生まれる前から助産師や保健師等の専門スタッフによる「パパママ教室」を開催し、「愛着形成」の支援をしています。教室では、妊娠・出産・育児の正しい知識を身に付けるための講座を受けたり、妊婦がお腹の中の赤ちゃんに語りかけるなどの愛着形成の方法を学ぶことができます。

また、父親の育児参加を促すため、「妊婦ジャケット体験」や「赤ちゃんの抱っこ」の仕方」「おむつの替え方」を母親と一緒に体験することができます。

生涯にわたる健康づくりの推進

将来にわたって「健康長寿」であり続けられるように、佐久市では生まれる前から高齢になるまで、生涯を通じて切れ目ない保健サービスを提供しています。



■ぴんころ運動推進事業

ぴんころとは健康のまま夭寿を全うする「ピン・ピン・コロリ」を意味します。ピンピン講座では、運動と食の両面から健康づくりを推進しています。

「ぴんころ食」

ぴんころ食とは地元の食材を使った適正なカロリー、適正な塩分の健康長寿食のこと、小学校、中学校の給食で提供をしたり、各地区での調理実習で普及活動を行っています。

「食育推進」

地域の食生活に関するボランティア「食生活改善推進員」や地域の保健ボランティア「保健補導員」とタイアップしたり、高校生向けの食育講座や親子の食育教室も行っています。

「減塩運動」

塩分が多い食品を好む習慣を改善するため減塩運動にも力を入れています。減塩に関する情報を伝えるパンフレットの配布、味噌汁の塩分測定、適塩みそ汁の試飲など、様々な角度から取り組んでいます。



■ウォーキングのまち佐久市

佐久市では“誰でも、どこでも、いつからでも”始められるウォーキングを応援! その一環として、ウォーキングマップを作成し、全戸に配布しています。またホームページでは掲載しきれなかったコースも紹介しています。

■保健補導員会

保健補導員は、健康に対する知識を広める地域ボランティアです。自ら健康について学び、地域住民に健診を勧めるなどの活動を行っています。

メタボリックシンドロームをテーマにした寸劇、正しい歩き方の指導、ストレッチ体操や保健師の講話などを地区で開催し、日々市民の健康増進を助けています。

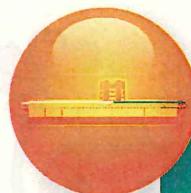


■歯科保健事業

「2歳児歯っぴー教室」

市民の口の健康を守る活動を行う「歯科保健事業」そのうちの1つが「2歳児歯っぴー教室」です。1歳6ヶ月から3歳の間にむし歯になるお子さんが多いことから、むし歯予防の意識向上を目的として、2016年から2歳児と保護者を対象に、毎月、歯科健診や仕上げみがきの練習などを教室で行っています。

佐久市ではこの他にも、自殺予防事業として心といのちの相談に対応するための専用電話窓口「心のほっとライン佐久」など、心の健康づくり事業にも力を入れています。



佐久市役所

高齢者支援事業

地域で支え合う社会福祉の充実

高齢者の皆さん、住み慣れた地域で自立した生活を営むために、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケア」を実践しています。



■ ほねぶと健康クラブ

要介護状態になりやすい要因として、骨折、関節疾患、筋力低下などが挙げられます。これらを予防するために、教室では、健康チェック、ストレッチや筋力強化などの体操指導、栄養講話をっています。



■ お達者応援団育成塾

佐久市では平成19年度から地域で介護予防活動を実践する人材を育成しています。介護予防に関する講座を1年間受講していただき、卒業した方は地区サロンの運営や、「ほねぶと健康クラブ」、「はつらつ音楽サロン」のボランティア等、様々な面で活躍しています。また、より実践的な内容を学ぶための「レベルアップ講座」を開催しており、希望する方はもう1年追加で学ぶことができます。この「レベルアップ講座」を卒業した方は、自主的な介護予防活動のグループや教室を立ち上げて活躍しています。



■ はつらつ音楽サロン

「音楽」には認知症を予防する効果があるため、佐久市では、様々な事業に「音楽」を取り入れてきました。

「はつらつ音楽サロン」では、昔懐かしい曲を中心に、歌を歌ったり、楽器を演奏したりして、皆さんと楽しみながら認知症予防を行っています。

■ はつらつ音楽サロン

新規のうちに発見するまでは、



■ 認知症サポーター養成講座

「認知症サポーター養成講座」とは、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守り、応援し、だれもが暮らしやすい地域をつくっていくボランティア、「認知症サポーター」を養成する講座です。講座内容は、標準テキストを使い、認知症の原因となる病気、症状、診断・治療、認知症の方と接するときの心がまえ等を学習します。理解がしやすいように受講者にも協力をしてもらい、ペーパーサポートの実施や認知症の方への声かけや接し方のロールプレイも講座の内容に盛り込み実施しています。これまでに「認知症サポーター養成講座」を受講しているのは、民生児童委員、地区サロン、小中高等学校、消防団、企業等多くの方に受講をしていただいています。

「認知症サポーター」を受講していただいた方には、認知症サポーターの証としてオレンジリングをお渡ししています。認知症サポーター養成講座を通して、誰もが住みやすい地域づくりを推進しています。



■ 在宅医療・介護の連携体制推進事業

市では、可能な限り住み慣れた生活の場において必要な医療・介護サービスを受け、安心して自分らしい生活が継続できる地域を目指して、医療・介護関係者の専門職と顔の見える関係を築き、地域課題を解決するための、支え合いの仕組みづくりを進めています。

■ 市民公開講座

地域住民への普及啓発活動としては、「市民公開講座」を開催しています。市民と共に医療と福祉の将来を考える機会となっています。

■ 老い支度講座

「老い支度講座」として、終末期の意思決定支援や互助体制づくりの必要性、在宅医療や介護・介護予防についての情報提供を地区サロン等で行っています。

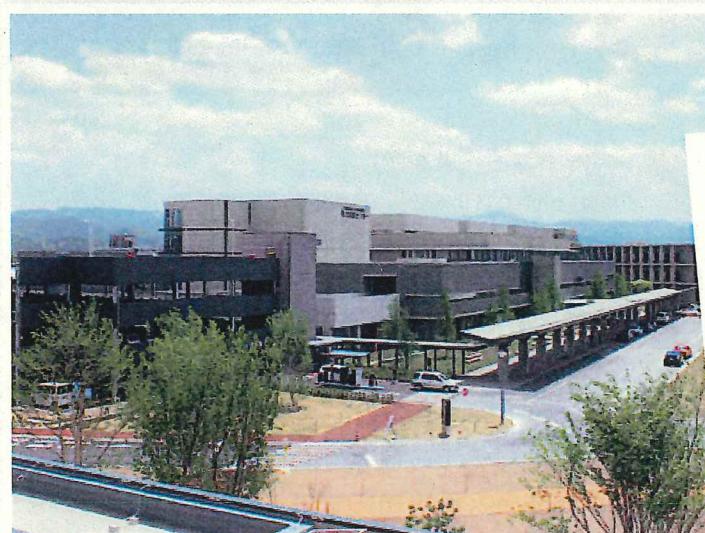




JA 長野厚生連 佐久総合病院

佐久総合病院本院／佐久医療センター／小海分院／小海診療所

「農民とともに」の精神で、医療および文化活動を通じ、
住民のいのちと環境を守り生きがいのある暮らし
実現できるような地域づくりと、国際保健医療への貢献を目指します。



■ 佐久医療センター

address data

- 佐久総合病院
〒384-0301 長野県佐久市白田 197 番地
TEL: 0267-82-3131 FAX: 0267-82-9638
- 佐久医療センター
〒385-0051 長野県佐久市中込 3400 番地 28
TEL: 0267-62-8181 FAX: 0267-88-7354
- 小海分院
〒384-1103 長野県南佐久郡小海町大字豊里 78
TEL: 0267-92-2077 FAX: 0267-92-2441
- 小海診療所
〒384-1102 長野県南佐久郡小海町小海 4269-9
TEL: 0267-92-2163 FAX: 0267-92-3846

URL: <http://www.sakuhp.or.jp>

■ 本院

いずれの時代においても地域に密着し、そのニーズを見極めながら、
住民の立場にたった医療を目指します。

【病院概要】

本院、小海分院、そして2014年に開院した佐久医療センターからなる佐久総合病院。40以上の診療科から組織され、230人の医師を抱えます。ドクターヘリも出動するなど、佐久地域で最も大きく、最新治療を受けられる病院です。



■ ドクターヘリ



■ 認知症サポート養成講座



■ 若月俊一医師



「農民とともに」

佐久地域では古くから「農民とともに」の精神で農村医療に取り組んできた実績があります。かつての佐久地域は、農業従事者が多く、「医者にかかるのは一生に一度」と言われたほど住民にとって病院は縁遠い場所でした。そんな認識から、病が進行し、医師が駆けつけた頃には手遅れ、ということもあったそうです。その住民たちの古い考えを変えたのが、佐久総合病院の若月医師です。



■ 先人の医師たち

【プライマリヘルスケア】

若月医師をはじめ、佐久病院の医師たちが、農家を回り診療を行うなど、垣根を取り払う努力をしてきました。時にはお芝居やコーラスを通じて医療に親しんでもらい手術への恐怖心を持つ住民のため、手術も公開してきました。こうした医療の民主化、住民主体の健康増進活動、プライマリヘルスケアは佐久総合病院の歴史そのもの。若月医師は長年、地域に根差した医療を目指していました。そんな若月医師の活動は実を結び、佐久総合病院では今でも医師たちが日々を訪問し診療する、在宅医療体制が整っています。



【地域医療連携】

疾病予防の地域活動、早期発見と早期治療、医療機関の機能分化と連携、「地域医療連携」が進んでいます。これにより、佐久市では1人あたりの医療費が全国に比べて10%以上低くなっています。

【国際協力】

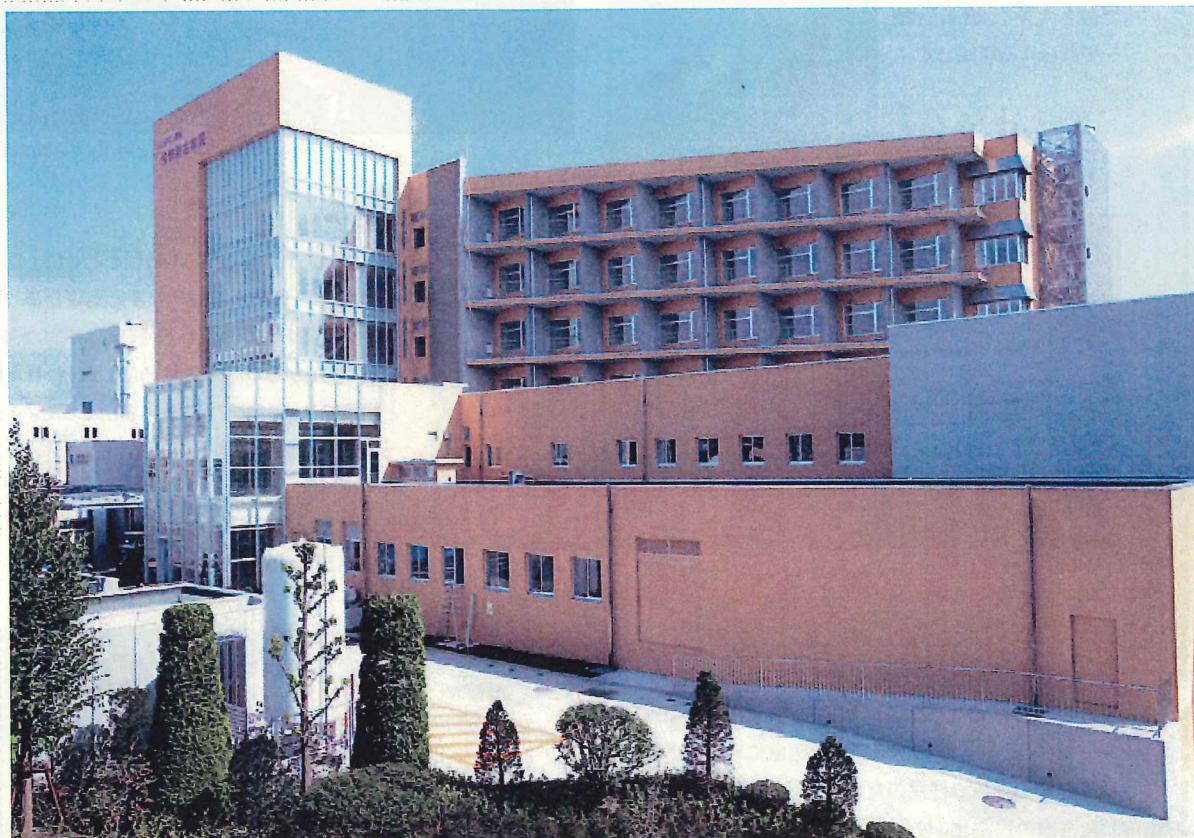
こうした地域医療や農村医学研究の経験と成果を生かして国際協力活動を進めるため、1994年に佐久総合病院では国際保健医療科が設立、1999年から2012年の間に、海外の74ヶ国からのべ870人が佐久市を訪れていました。



佐久市立国保 浅間総合病院

浅間総合病院／糖尿病センター

患者さん中心の、患者さんのための、良質な医療の実践を目指しています。



■ 浅間総合病院



■ 糖尿病センター

address data
● 浅間総合病院
〒385-8558 長野県佐久市岩村田 1862-1
TEL: 0267-67-2295
FAX: 0267-67-5923
URL: <http://www.asamaghjp.jp/>

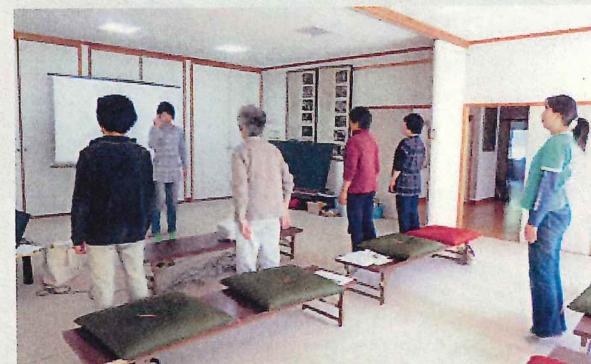
脳卒中、糖尿病をはじめとする生活習慣病の診療、予防、健康意識の啓発に努めています。

「病院の歴史」

その歴史は長く1959年に5科20床の病院として開院。初代院長である吉沢國雄名誉院長は、糖尿病を生涯の専門とし、現在では一般的である糖尿病患者のインスリン自己注射を日本で初めて導入するきっかけを作り、糖尿病治療の基礎を築きました。糖尿病の集団検診や専門病棟の開設など、早期発見と治療を精力的に行い、現在では21科300床を数える地域の中枢病院として機能しています。



■ 吉沢國雄名誉院長



「疾病予防事業」

地域に開かれた市立病院として、健康に対する意識啓発活動を行っています。健康増進や感染予防・心身のリフレッシュ等をテーマに、地域へ出向いて講演等を行い、市民の疾病予防や健康意識の向上に努めています。



「地域包括支援センター」

日本では高齢化の進展に伴い、要介護高齢者の増加、介護期間の長期化など、介護に関するニーズはますます増えています。浅間総合病院は、高齢者の身近な相談窓口として、地域包括支援センターで高齢者の支援を行っています。ここではさまざまな相談に対応できるように、高齢者の権利を守る社会福祉士、介護保険利用についての相談・支援を行う主任ケアマネージャー、地域の保健衛生や健康増進についての専門的な知識を持つ保健師の3職種を配置しています。地域住民や、病院の退院支援担当者、地区的役員、障害者サービス関係者等多くの方が相談に見えます。専門機関や地域住民の方と連携ネットワークを作り、高齢になっても地域で暮らし続けられるように支援しています。



「居宅介護支援事業所」

核家族化や介護する家族の高齢化などにより家庭の状況も変化してきたことから、日本には、高齢者の介護を社会全体で支えあう仕組みとして介護保険制度があります。こうした中、市立病院の役割として、病院で治療を受けた後、障害が残っても在宅で生活できるよう、その支援として介護保険サービスを提供しています。

要介護認定されたご本人、ご家族の依頼により、介護保険に関わる業務を行うのが居宅介護支援事業所です。利用する介護保険サービスを決め、ケアプランの作成を行い、介護サービスを提供する事業者や介護施設との連携、サービスの調整を行っています。



学校法人 佐久学園

佐久大学／信州短期大学部

人に、生活に、文化に、「寄り添える人」の育成を目指して



広い視野を持ち、国内外で活動できる保健医療職の育成を目指しています。

佐久大学は、台湾、タイなどアジアの近隣諸国をはじめ、アフリカなどからも看護研修員を受け入れており、2014年からの3年間でその数は約20の国と地域、100人近くになります。

様々な研修プログラムを実施することで、参加される国々の保健医療、介護レベルの向上に役立つことを期待しており、看護、助産、介護を学ぶ日本の学生たちにとっても興味深い情報交換の場となっています。



 近年台湾からは8件、60名余りの件修正が佐久市の健康増進と高齢者ケアの学習で訪れました。

台湾からの参加者の感想

- 「多職種連携」や「地域連携」を学びました。リハビリ病院での入院調整では、医師から作業療法士や介護福祉士まで一堂に集まり患者に一番いいケアの方法や退院に向けての相談がされていました。これは台湾ではありませんことです。今後、台湾でも連携作業を取り入れるようにしてみたいです。
- 私たちオペ室、救急救命室のナースは、いつも死と隣り合わせです。日本の看取りを学び、私たちも見習いたい点が幾つかありました。それは「患者と家族への尊重」「笑顔」「時間にゆとりを」です。施設で看取りをする際、利用者さまの家族だけでなく、施設のスタッフもいっしょに寂しさを分かち合うことは素晴らしいと思いました。訪問看護師が訪問先の利用者さまとご家族のかたに信頼されていることにびっくりしました。それは若月先生が作り出した地域医療の歴史があることを大学の先生方に説明を受け地域医療の素晴らしさが佐久の素晴らしさだと感じました。

 タイから訪れた14名(2016)、アフガニスタンから訪れた18名(2017)による、母子保健実施管理コース。17日間に渡り研修を行いました。

タイからの参加者の感想

- 日本では出産後の入院日数が5日から6日あり、タイの3日に比べるとながい。しかしその間に母乳栄養の確立に対するケアができている。乳房マッサージや、なかなか吸い付けないBabyと母のケアが充実していることがわかった。もっと日本の技術を勉強したい。
- タイは性に関する教育が、性に関するメカニズム、性行為感染症など医学的な視点で行われることが多いのですが、日本では命の大切さに重点を置き、教育されていることがわかった。自国でも地域レベルでこのような学級が行われるようになってほしい。

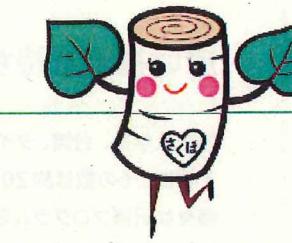
アフガニスタンからの参加者の感想

- アフガニスタンでは、正常分娩は産後4時間で退院します。地域や自宅に於ける母乳栄養、離乳食指導、乳幼児の感染予防など、日本から多くのことを学びました。



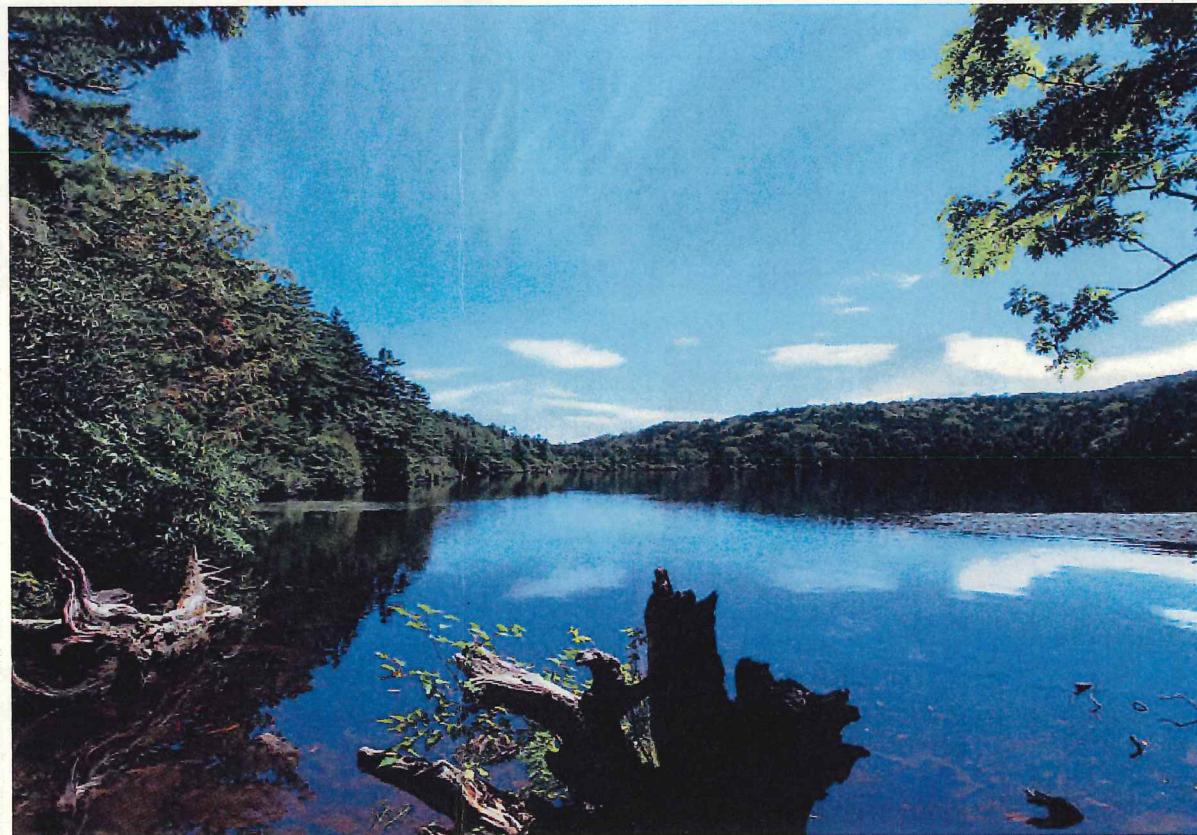
佐久穂町

[事業連携自治体]



長野県の東に位置する、佐久穂町。

人口およそ10,000人。人々の輝き、森林資源の宝庫です。



■白駒の池



■地域いきいき健康クラブ

address data

● 佐久穂町役場
〒384-0697 長野県南佐久郡佐久穂町
大字高野町 569 番地
TEL: 0267-86-2525(代表)
FAX: 0267-86-2633
URL: <https://www.town.sakuho.nagano.jp/>

佐久穂町



このまちの人たちは、子どもの頃から健康長寿へつながる取組を、まちぐるみで行っています。

「全住民対象の検診制度」

佐久穂町では18歳以上の全住民を対象に、各種検診を行っています。

国民健康保険加入者以外も対象という手厚いもので、保健推進員の協力のもと、全戸に申込書を配布・回収しています。

検診の内容は、総合健診から胃カメラ検診、乳房検診、子宮頸がん検診までと充実した内容になっています。

■集団健康検査



■地産地消の学校給食

色があります。「はつらつ健康調査」では、小中学生の健康検査を佐久総合病院に集約。東邦大学で成人後のデータと合わせ、長期的な解析を行っています。運動器検診も町立千曲病院と連携、生徒の将来を見据えた検査としています。

食育は収穫体験などを通じ、地元食材を給食に出すことで地産地消に关心を持ってもらうよう心がけています。



■町立保育園

「佐久穂町保育園オソリーワン事業」

児童の特性を理解し、その子に合った適切な支援を乳幼児期から切れ目なくしていくため、保健師や療育コーディネーターなどで構成する支援チームが保育士をフォローするシステム「オソリーワン事業」があります。

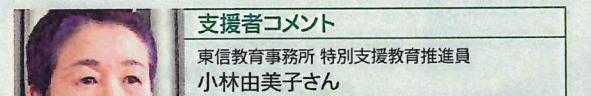
子どもはもちろん、保護者の不安解消や育児ストレスの軽減を図るとともに、保育士の現場対応能力の向上につながり、毎日の保育に生かされています。

■町立保育園

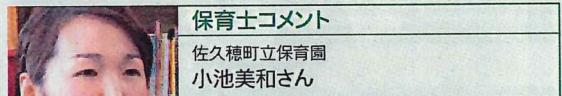
支援者コメント

東信教育事務所 特別支援教育推進員
小林由美子さん

オソリーワン事業に関わらせていただい
て、一番感じることは、行政と外部協力者
がチームとして連携していることです。今
年度から一つの園を一日かけて訪問し、午前中は保育参観、
午後はカンファレンスを行っています。複数の視点でお子さん
の育ちを見つめ、お子さんにとって必要な支援を行うことが大
切です。子どもたちの『できた!』『もっとやりたい!』という声が
あふれる保育園にしたいですね。



■支援者コメント



佐久穂町立保育園
小池美和さん

専門の先生方から、どんな支援、配慮が必要かを助言いただき、普段の保育ではなかなか気づきづらい新たな保育の手立てに気づくことができました。この事業を継続していくことで、園児一人ひとりの特性にあった保育ができるようになっていくと感じています。また、「支援計画」をたてることで、小学校への引き継ぎもスムーズとなり、保育スキルの向上にもつながり、オソリーワン事業はとても大切な事業だと捉えています。



ヘルスケア 関連産業

高い技術力と創造力で「健康長寿
佐久市内には「健康長寿」を支えるヘルスケア産業の企業があります。



■ ウォーキングポール

■ 株式会社シナノ

株式会社シナノは、1919年の創業以来、スキー・ポールを製造し続け、100年を迎えた歴史ある企業です。1999年に歩行補助杖を開発、福祉分野に進出し、2006年からウォーキング用専用ポールを開発し、普及に取り組んでいます。「ポール技術でWalking Lifeを支える」をスローガンに、スポーツから健康福祉産業まで幅広く展開しています。

【ポールウォーキング】

ポールウォーキングは2本のポールを持って歩くシンプルな運動ですが、転倒予防に役立つほか、上半身を使ったウォーキングになるため、効率的な有酸素運動になります。

【体験講習会】

2010年には、株式会社シナノが中心となり、佐久ポールウォーキング協会を設立しました。協会では、長野県内20か所で体験講習会を開催したり、保健補導員会のプロック会議等でも体験講習会を実施しています。また、佐久市内20か所にポールステーションを設け、ウォーキング用ポールの借用、返却ができるステーションでもできるようになっています。

こうした活動により、現在では、市内各地でポールウォーキングに取り組む団体が立ち上がっており、公園や街中で、ポールウォーキングしている方をよく見かけます。

【コミュニティ創出】

ポールウォーキングは、単にポールを使って歩くことによる健康づくりだけでなく、人々が集まり、楽しく健康づくりを行う地域のコミュニティ創出にもつながっており、今後もますます市民の健康増進に寄与することが期待されます。



代表取締役 柳澤光宏

ポールウォーキングは、誰でも簡単に楽しく始めることができます。私たちはこれらの商品を通じて、みなさまに楽しみと健康を提供してまいります。



■ 徘徊検知装置「ゆとりも」

■ 株式会社カウベルエンジニアリング

日本の高齢化社会において、認知症などによる徘徊が社会問題となっています。株式会社カウベルエンジニアリングは、この問題を水際で食い止める「徘徊検知装置：ゆとりも」を製品化し、販売しています。

【徘徊検知装置：ゆとりも】

「徘徊検知装置：ゆとりも」は、高齢者の方などが監視器の境界線を越えると、人感センサと無線通信により家族などにアラームで知らせます。家族やケアする方々は携帯する認証キーにより誤報を抑制します。

【ICTシステム：みまろぐクラウド】

また、大型施設向けには、IoT/M2Mをはじめとする最新テクノロジーを駆使した「ICTシステム：みまろぐクラウド」を提供。「ゆとりも」の機能に加え、ナースコール、バーチャルセンサ、徘徊検知カメラ等との連動により、スタッフの負担を軽減します。

【サイレント・ナノ・ディフューザー】

一方、介護現場やホテルなどでは臭いの改善が求められており、2016年には、「サイレント・ナノ・ディフューザー」を、市内企業等との連携により共同開発しました。

「サイレント・ナノ・ディフューザー」は、粒子をナノ化して空気中に滞留（たいりゅう）させることができ、除菌・消臭・芳香の効果が持続します。病院や介護施設等の衛生環境、匂い環境の改善を始め、宿泊施設など、多様なフィールドでの快適空間の創出に貢献します。



執行役員 柳澤喜宣

IoT/M2Mの最新テクノロジーで、医療、介護福祉の環境を改善し、社会貢献しています。

都市」のさらなる発展を目指します。

そのうちのいくつかの企業を紹介します。



■ 体幹2点歩行動摇計「ザ・ウォーキング」

■ マイクロストーン株式会社

マイクロストーン株式会社は、産業界、医療機器界の土台を支えるモーションセンサ、センシングシステム、また多くの方に夢を与えるファンタジー商品について、企画、開発、製造、販売まで一括して行っている企業です。

【ザ・ウォーキング】

体幹2点歩行动摇計「THE WALKING (ザ・ウォーキング)」は、2つのモーションセンサを背中と腰に取り付け、10mほど歩行するだけで、簡単に歩行時の体の動き方、バランスなどが計測できます。

センサの装着から計測結果の表示まで2分ほどで、計測場所も選びません。

ザ・ウォーキングは、人間ドッグのオプションメニューとして、佐久総合病院、市立浅間総合病院で導入されているほか、長野県内の病院への普及が進んでいます。

また、この機器を利用した「歩行ケア」サービスは、企業の健康経営活動の一助として、大手製造業の企業にも採用されています。



■ プレパラート自動染色・封入システムユニット

■ 株式会社システム・ワン

株式会社システム・ワンは、宇宙・航空・医療機器・産業機器・船舶・海洋等広範囲の事業分野で、コンピュータ技術、メカトロニクス関連技術を駆使したシステムエンジニアリングを展開している企業です。

【プレパラート自動染色・封入機ユニット】

医療機器としては、細胞組織検診用のプレパラート自動封入機の製造・販売をしています。

細胞組織検診における小型の染色機・封入機ユニットへのニーズに対応するため、2016年には、プレパラート自動染色・封入システムユニットの開発に取り組み、現在その製品化を進めています。

【サイレント・ナノ・ディフューザー】

ヘルスケア関連機器として、PM2.5の核となるVOCガス類にも対応した脱臭機の製造・販売をしており、これらの技術が、市内企業等と共同開発した「サイレント・ナノ・ディフューザー」にも生かされています。

株式会社システム・ワンの細胞組織検診用プレパラート自動封入機や脱臭機は、現在、国内外の多くの医療機関・介護施設等で利用されています。

サイレント・ナノ・ディフューザーや新たに開発したプレパラート自動染色・封入システムユニットも含め、今後も世界市場に向けた積極的な展開を図っていきます。



代表取締役 市川時男

弊社は航空宇宙事業関連を柱に、各種特注品の設計製造を行っているエンジニアリング会社です。その技術力を医療系に活かせないかという思いで数年前から医療系の試験機の製造開発に取り組んでいます。今、国内とドイツ向けに販売しておりますが、さらに海外向けの販売を強化していくと考えております。



保健・医療の つばさ事業

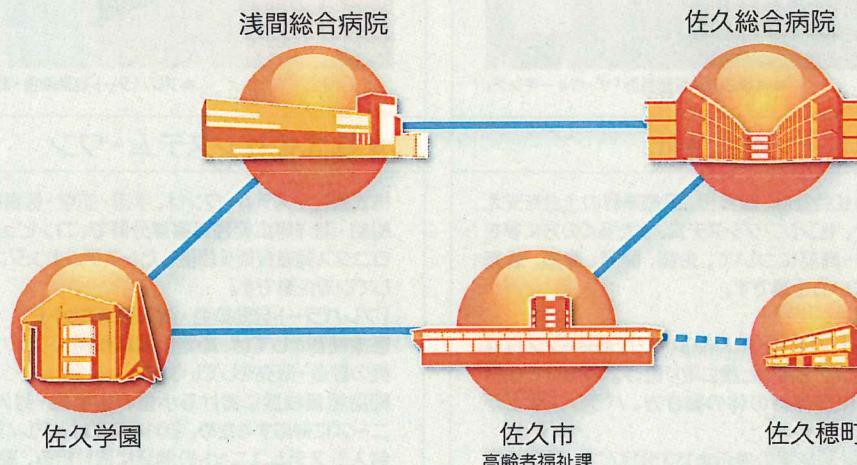
海外からの視察希望者に対して、速やかに研修内容に応じた情報や視察窓口を一本化し、効果的な受

視察機会の提供が行えるように、
け入れ態勢を整えています。



「保健・医療のつばさ事業」

アジア諸国では徐々に高齢化が進んでおり、日本の保健・医療の取り組みを学ぶため、関係者の佐久市への訪問が活発化。そこで佐久市では受け入れ窓口を一本化し、佐久市と2つの病院、佐久大学が連携し、4者の特徴を生かした、効率的で適切な受け入れ態勢を整えています。



「通訳養成」

視察時の対応や帰国後のフォローアップが適切に行えるよう、佐久市独自で計画的な通訳養成にも取り組んでいます。



「草の根技術協力事業」

佐久市と佐久大学が連携して実施している「草の根技術協力事業」では、JICA国際協力機構の支援のもと、高齢化が進むタイ、チョンブリ県における町ぐるみの高齢者ケア・包括プロジェクトにおいて、研修生の受け入れや保健・介護に係る技術提供などを継続しています。



視察研修受入プログラム メニュー

佐久市役所 健康づくり推進課

- 母子保健事業 (パパママ教室、乳幼児健診、離乳食教室)
- 口腔歯科保健事業 (2歳児歯つぼー教室、妊婦さんの歯の教室)
- 地域・住民連携 (保健補導員制度、ボルウォーキング、森林セラピー)
- 食育推進事業 (ぴんころ運動推進事業、食生活改善推進協議会)
- 心の健康づくり事業
- 健診事業 (地域集団健診、がん検診、歯科検診)



佐久市役所 高齢者福祉課

- 生きがい対策事業 (シルバー人材センター)
- 生活支援対策事業 (実態調査、ひとり暮らし高齢者緊急通報)
- 介護予防事業 (ほねぶと健康クラブ、はつらつ音楽サロン)
- 人材育成 (お達者応援団育成塾、認知症サポート養成講座)
- 在宅医療・介護の連携体制推進事業
- 包括的支援事業 (地域包括支援センター、市民公開講座)



佐久穂町

- 健康管理事業の歴史と取組
- 小中一貫教育 (保健と給食に係る取組)
- 保育園のオンラインワン事業



佐久市のヘルスケア産業

- 株式会社シナノ
- 株式会社カウベルエンジニアリング
- マイクロストーン株式会社
- 株式会社システム・ワン



佐久総合病院

- 医療・介護の連携体制
- 訪問看護／リハビリテーション (訪問看護ステーション)
- 高齢化医療に対する取り組み
- 農村医療の歴史と現在
- へき地における医療
- 保健情報管理 (IT化)



浅間総合病院

- 医療・介護の連携体制 (地域包括支援センター)
- 糖尿病予防・治療に係る取り組み (糖尿病センター、糖尿病教室、スマート外来)
- 地域との連携 (ボランティア活動)
- 患者支援 (対話カフェ)



佐久学園

- 認知症への理解と支援
- 介護福祉に係る専門職
- 高齢者看護ケア
- 予防医療、健康増進に係る取り組み
- 人材育成

